

図版① 興福寺断碑



図版② 崔敬善墓誌



図版③ 司馬晒墓誌



「落ち穂拾い記」 ⑦ 『宋拓神龍本蘭亭序』 ②

前回、目の前から消えた王羲之の『黄庭経』は、戦前の明治末から日本中国の書画名品を影印していた博文堂で刊行された『宋蝉翼拓黄庭経 墨池堂祖本』の底本であった。如何に悔しくとも「力」のないものには、どうすることもできなかった。店主も約束をした手前、きまりが悪そうに見えた。しばらくの後の後で、店主に今回の二件の碑帖は何処で入手されたのですかとすると「美術倶楽部ですよ」と。この二件だけです。他にもありませんでしたか。すると「いや、沢山ありました。中国物の書画が。」他の拓本は、ありませんでしたか。「いくつかあったよ。殆どが、関西のSさんが買ったよ」と。その後、関西のSさんが、気になりだした。この店は、学生時代から福井へ帰省の折に少し寄り道したりして部長のNさんとは、顔見知りであった。上京され偶然にお目にかかった折に、美術倶楽部の仕入れの件をあれこれお尋ねし、碑帖拓本を購入されたのなら是非とも見せて欲しいと厚かましのお願いをした。すると社長に手紙を書かれたらどうですかと。後日、前回東京で見た二件の碑帖拓本の『黄庭経』は、博文堂本の底本であったことからあれこれ想像し、過去に博文堂から刊行された碑帖拓本の中から、当時非常に気になっていた『興福寺断碑』(図①)、『崔敬善墓誌』(図②)、『司馬晒墓誌』(図③)、『王居士磚塔銘』(図④)、『開皇本蘭亭序』(図⑤)などの底本が混ざっていたのではないかと推測した。『興福寺断碑』は、明拓の精拓本であり、『崔敬善墓誌』や『司馬晒墓誌』は原石が早くに失われ、天下に数本しか伝来しない非常に珍しい拓本である。博文堂本の『館本十七帖』の名品とされる上野本や『宋拓皇甫誕碑』もあるが、前者は京都国立博物館に所蔵され、後者は戦前に京都亡命していた羅振玉所蔵であり、帰国とともに持ち帰られ、その後北京の故宮博物院に所蔵されていることが知られていた。こうした情報をもとに、先の五件の碑帖名を挙げて、もしこれらがあったら是非ともお知らせください。購入したい旨を書いた。すると返信を頂いた。お尋ねのもの



図版④ 王居士磚塔銘



図版⑤ 開皇本蘭亭序



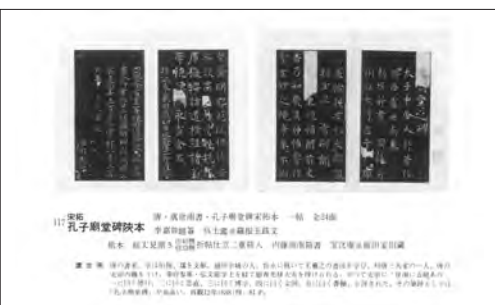
は、仕入れしていないと。しかし碑帖は購入した。売り出すときは、一番先にお知らせしますよと記されてあった。その数ヶ月後、帰宅すると関西のNさんから速達で目録が、届いていた。すぐに開封し赤い色の表紙に瑞雲の行書の文字がレイアウトされ中国画特集号とある目録を繰ると、中程に「飯田家(高島屋)旧蔵中国古書画名品特選目録」の大きな見出しがあり、明の文徵明や董其昌の書画の卷子作品から始まり、祝允明、仇英、沈石田等の名家の作品が四十数件紹介されていた。多くが羅振玉や内藤湖南の題記や跋文が付されていた。その中に三件の碑帖があり、116『宋拓神龍蘭亭序』(図⑥)、117『宋拓孔子廟堂碑陝本』(図⑦)、118『明拓唐顏真卿争座位帖』(図⑧)がそれぞれ簡単な説明と写真図版が付されていた。確かに先に挙げた名前のものはない。しかしこの三件の図版と説明を読みながら『争座位帖』や『孔子廟堂碑陝本』の拓本は、それまでにも多く見てきた。しかし116の『宋拓神龍蘭亭序』は気になり、目録を送っていただいたN氏にすぐに直接電話をし、116の『宋拓神龍蘭亭序』の予約をお願いし、翌日に関西の店に伺うことにした。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

図版⑥ 宋拓神龍蘭亭序



図版⑦ 宋拓孔子廟堂碑陝本



図版⑧ 明拓唐顏真卿争座位帖



書道芸術院

令和の群像 (2020)



山本梨花

この度、原稿依頼を受けた頃からコロナ感染の言葉を耳にするようになり、次第に全世界に広がり数知れない問題が溢れ出している現況、一日も早い終息を願いつつペンを取りました。

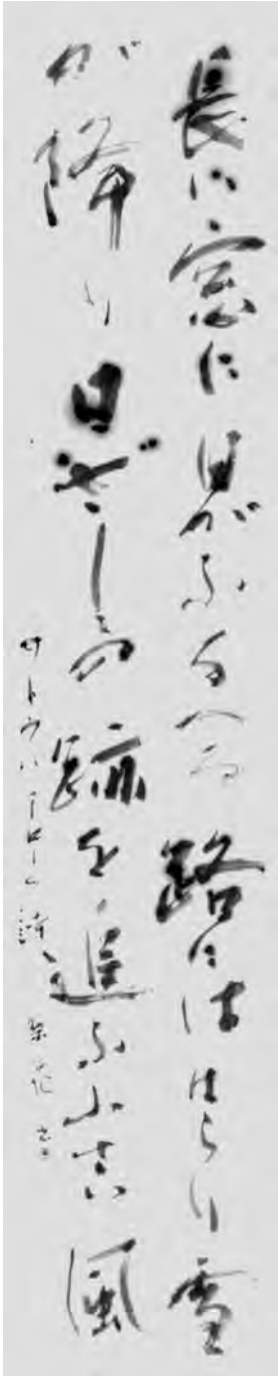
私は小学2年生から5年間、近くの書道教室に通い、先生が朱液で書かれるお手本に憧れ基本的な筆運びの指導をしていただきました。その後、中学入学と同時に今は亡き三宅素峰先生の門を叩き入門させていただきました。先生の書かれる筆さばきに魅了され、書を意識し始めた頃「小中学生全国書道展」において文部大臣賞を受賞しました。私にとりまして最高のよろこびを

感じたことも後押しとなり、現在まで継続を成し得たものと思っております。高校卒業を迎えた頃は漢字部門で書道芸術院展にも出品していましたが、種谷扇舟先生、三宅素峰先生が現代詩文書に移籍されたことから漢字、かな交じりで出品する運びとなり、現在に至っております。その当時は種谷扇舟先生、飯高和子先生、辻元大雲先生が幾度か来岡下さり、種谷先生は秘蔵の原拓持参で古典を学ぶ重要性をご指導して下さいました。そうした先生方の後押しが道しるべとなり今日に至っているものと感謝致しております。

また作品制作におきましては平素より素

峰先生は多くを語らず、より多くの作品と出会い鑑賞力をつけ目を養い自己を磨くよう指導を受けた事を懐かしく思い出されます。出品を重ねる度、書の奥深さに折れそうになりますが、少しでも何か変化をと思いい、いつしか淡墨の良さに引かれ、淡墨作が多くなったように思います。今回の掲載作品も、サトーハチロー作「こころの書」の中より景色を想像しながら淡墨で書いた作品です。今後はより詩を大切に表現出来るよう努めたいと自己反省をしています。

末筆になりましたが、地元岡山では小竹石雲先生には長年一方ならぬお世話になっております。先生は想像を絶する努力を重ねられ書の真髄を学ばれ多くの方々に教え導いて下さいます。感謝の外ありません。そして同志の方々の温かさに感謝しながら書の道を進んでいけたらと願うばかりです。



第73回書道芸術院展 「日向の雪」

山本梨花書

書のひろば

理事長 辻元大雲

(公財)書道芸術院定時評議員会・理事会開催 新役員体制発足

令和2年度定時評議員会が6月6日開催、折からの新型コロナウイルス蔓延の影響から今回も書面による議決を行った。

- ・令和元年度事業報告の承認
- ・令和元年度決算の承認
- ・理事18名の選任
- ・監事2名の選任
- ・評議員補充選任
- ・その他報告事項
- ・全て原案通り承認された

任期満了に伴う理事監事改選を受け、新体制が6月20日開催の理事会にて発足した。今回も書面による議決となった。(細部詳細は院報を参照)

- ・理事長 辻元大雲(留任)
- ・常務理事 下谷洋子(筆頭理事)、小竹石雲、後藤大峰(以上留任)
- ・新理事 北村白琉(金井如水氏定年規定により参事に)、他は全て留任。
- ・監事 2名とも留任。
- ・評議員 工藤永翠(補充)

新体制の発足に伴い、各事業担当もほぼ昨年通り決定した。

・新型コロナウイルスの蔓延の影響による今年度の諸事業の見直し、年会費軽減などについては7月4日開催の臨時理事会にて審議して決定する予定。第74回展運営委員会も同日開催予定で、当番審査員、事務局委員など運営大綱を決定する。

(一財)毎日書道会評議員会・理事会開催 理事など改選、賛助会費の減免措置も決定した

6月10日、一般財団法人毎日書道会定例評議員会(書面審議)および理事会が開催され、令和元年度事業報告、決算の承認、任期満了に伴う理事改選、関連する諸人事も決定した。

- ・理事長 朝比奈豊(留任)
- ・専務理事 西村修一(留任)
- ・新理事(書壇のみ) 赤平泰処、薄田東仙
- ・新評議員(補充) 下谷洋子、渡辺美明
- ・新監事 大谷洋峻、三宅相舟
- ・新総務 上野成堂、大多和玉祥、高野清玄
- ・新常任顧問 赤池紳裕、宮本博志、石飛博光、鬼頭墨峻、船本芳雲、堀吉光
- ・新顧問 小原道城
- ・賛助会費減免措置 新型コロナウイ

ルスの蔓延の影響による本年開催予定の第72回展の順延、諸事業の見直しなどにより、本年度の賛助会費の減免措置を行うことを決定した。

- ・会友 3万円から2万円減額。
- ・会員 6万円から1万円減額。
- ・審査会員 12万円から1万円減額(財団役員は除く)

*既に納入された方には準備出来次第返金する。6月末までに納入できない方には秋口に返金分を差し引いた再請求書を送付する。

*経済状況が深刻な方は「会費一年未納」の形で資格を継続することも可能。

・令和2年度第33回毎日書道顕彰2氏に贈呈

- 「書道芸術部門」
 - 大石千世氏(独立・大字書)
 - 榛葉壽鶴氏(奎屋会・前衛書)
- なお表彰は来年第72回展授賞式にて

(公社)全日本書道連盟総会開催

6月4日、令和2年度総会が上野精養軒にて開催され、諸議案が決定した。やはり新型コロナウイルスの蔓延の影響によりほとんどの役員会員が委任状での対応となった。

- ・令和元年度事業報告、決算の承認
- ・その他を含め全て原案通り可決した。

日本の自然と書之心
日本の書200人選 華々しく開催

2020東京オリンピック・パラリンピック開催を記念して、文化芸術部門の協賛事業として、全書壇挙げての企画展は当初4月下旬の予定を繰り延べ6月11日〜21日まで、国立新美術館企画展示室E(200坪)にて盛大に開催された。

日本書壇を代表する200名余にハンデキャップを抱える方、青少年の優秀作品も交え、更に文房四宝の展示も行った。但し、当初予定のワークショップ、席上揮毫などは取り止めとなった。本院関係の出品作品は別掲をご覧いただきたい。

代表作家11名による制作風景のDVD映写は大好評で、スケールの大きさや質の高い充実した展示、また会期の短さを惜しむ声が高かった。

会期中萩生田文部科学大臣、西村経済再生担当大臣なども参観され、NHKニュースでも放映された。



展示会会場にて
(石飛、仲川、朝比奈毎日理事長と共に)

△かなの基本線について▽

かなの線、これは大変難しい問題です。ここでは、あくまでも基本的なものを述べます。

書写で学ぶかなは別として、かなは漢字とは基本的に線に違いがあります。重要なのは、かなは漢字の草書体をもとに誕生したとされていますが、かなの形は、文字を続けて書くことによって生まれるものなのです。

◇基本線一（紡錘形）

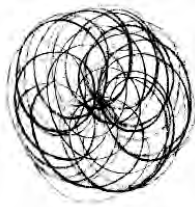
図版で示したように、一口で言う、かなの線は紡錘形が基本、続けるためには鋒先で入って↓鋒先で抜く。自然に入筆し、自然に引き抜く、尻もちをついたようにドンと止めることはしません。



◇基本線二（丸を書く）

次に丸の連続の練習です。ゆっくり、筆先を見ながら30回ほど回

す。同じような墨色で、リズムカ
ルに回す。

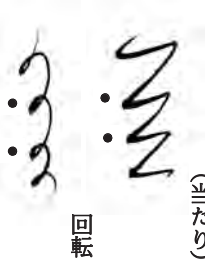


図B

- ・墨がすぐにかすれるようなら
- ①筆のおろし方不足
- ②紙がにじみすぎ
- ③墨が濃すぎる

◇基本線三（筆の当たり・回転）

生き生きとした線を書くための筆の当たりや、リズムを出すための反動などがあります。



図C

これらは、大事な基本です。筆を持つたびに何回も練習して下さい。

—基礎基本講座—

【筆による表現方法の違い】

書の表現領域を広げるためには筆を知ることが一番です。筆には剛柔・長短・太細さまざまの種類があります。詩文や語句から受ける感動に適した筆を使うことで、作品の質も高まっていきます。そういったことから様々な筆の用筆法を身につけることが大切です。
※墨の濃度、紙質は同じものを使用しました。

作例2〔羊毛超長鋒〕

軽快な動きのなかに繊細な表現を心がけました。細くとも強い線であれば成功です。



作例3〔羊毛短鋒〕

こだわりのない素朴なタッチで表現してみました。



【羊毛筆の特徴】

- ・保墨に優れ温かく粘りのある線が表現できる。
- ・柔軟な中に太い線や細い線が自在に表現できる。
- ・筆の弾力に応じて豪放かつ力強い表現や流麗で繊細な作品にも表現しやすい。

作例1〔羊毛中鋒〕

平易で自然なリズム表現を心がけました。

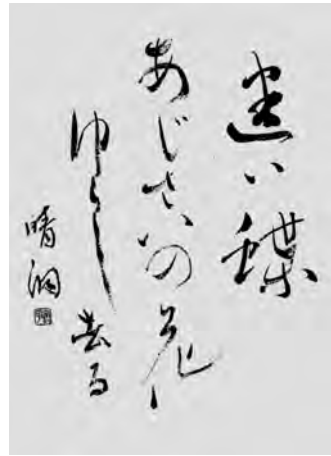


【まとめ】

筆の毛の長さによって、弾力をいかした運筆の時間性の違いを習得しましょう。
・他の毛質の筆でも書いてみましょう。印刷物にすると鮮明に出にくいので、紙（渗む紙、渗まない紙、薄い紙、厚い紙）、濃墨・淡墨による表現の違いはここでは省きました。各自で研究してみてください。



石川 晴洞
(千葉)



「迷い蝶」

この度は審査会員にご推挙頂き有難うございました。種谷扇舟先生、萬城先生から学んだ書の楽しさ、奥深さを生かして、感動を素直に表現出来るよう努力して参ります。支えて下さった諸先生方、教室の皆様から感謝いたします。

(晴洞)



高橋 清琳
(宮城)



「好」

書道は私の幸福です。書くことが楽しくて、長く続けてきました。ご指導下さった先生方に感謝しております。今回の作品は、私の書道に対する「好き」という気持ちを表現しました。まだまだ勉強不足ですが、心を新たに精進していきたく思います。

(清琳)



原島 春汀
(群馬)



「誓」

この度は審査会員にご推挙いただきありがとうございます。倉林紅瑤先生ご指導のもと、私たちは仲間同士切磋琢磨する中で、お互いに高め合う関係づくりを大切にしています。このような環境の中で書を学べることを幸せに思っています。これからも一層精進してまいります。

(春汀)



奥村 美楓
(東京)



「私の居場所」

小学生の頃より阿部恵泉先生のもとで学び、現代詩文書の魅力に惹かれ、現在は辻元大雲先生にご指導いただいております。

自分に自信がもてなかった私が見つけた居場所、それが書道でした。私が私らしくいられる場所。新たな挑戦への決意を込めて書きました。

(美楓)

※8月号でも引き続き、新審査会員の紹介をさせていただきます。

日本の自然と書心

日本の書道二〇〇人選

東京2020大会の開催を記念して

令和2年6月11日(木)～6月21日(日)

国立新美術館 企画展示室1E

《代表作家》

辻元大雲



明智而忠信 寛厚而愛之 (賈誼)

(236×53cm)×2

《選拔書家》

下谷洋子



屋すぎてなほ下つゆの乾かざる落葉の中のりんだうの花 (土屋文明)

56×175cm

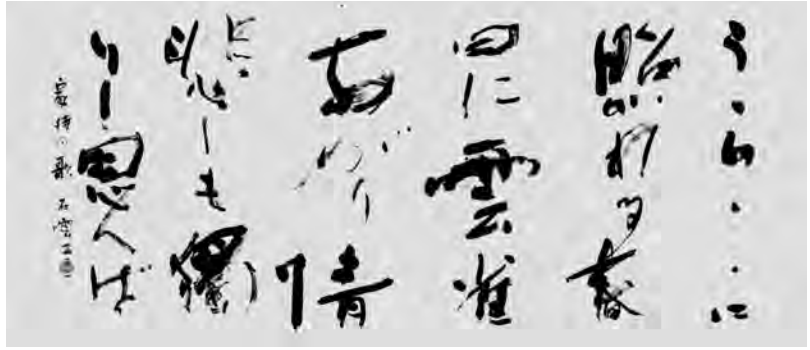
大野祥雲



海

90×126cm

小竹石雲



うらうらに照れる春日に雲雀あがり情悲しも獨りし思へば (万葉集)

60×140cm

小林琴水



淑

90×122cm

千葉蒼玄



ある日の事でございます… (芥川龍之介)

177×80cm

古典鑑賞

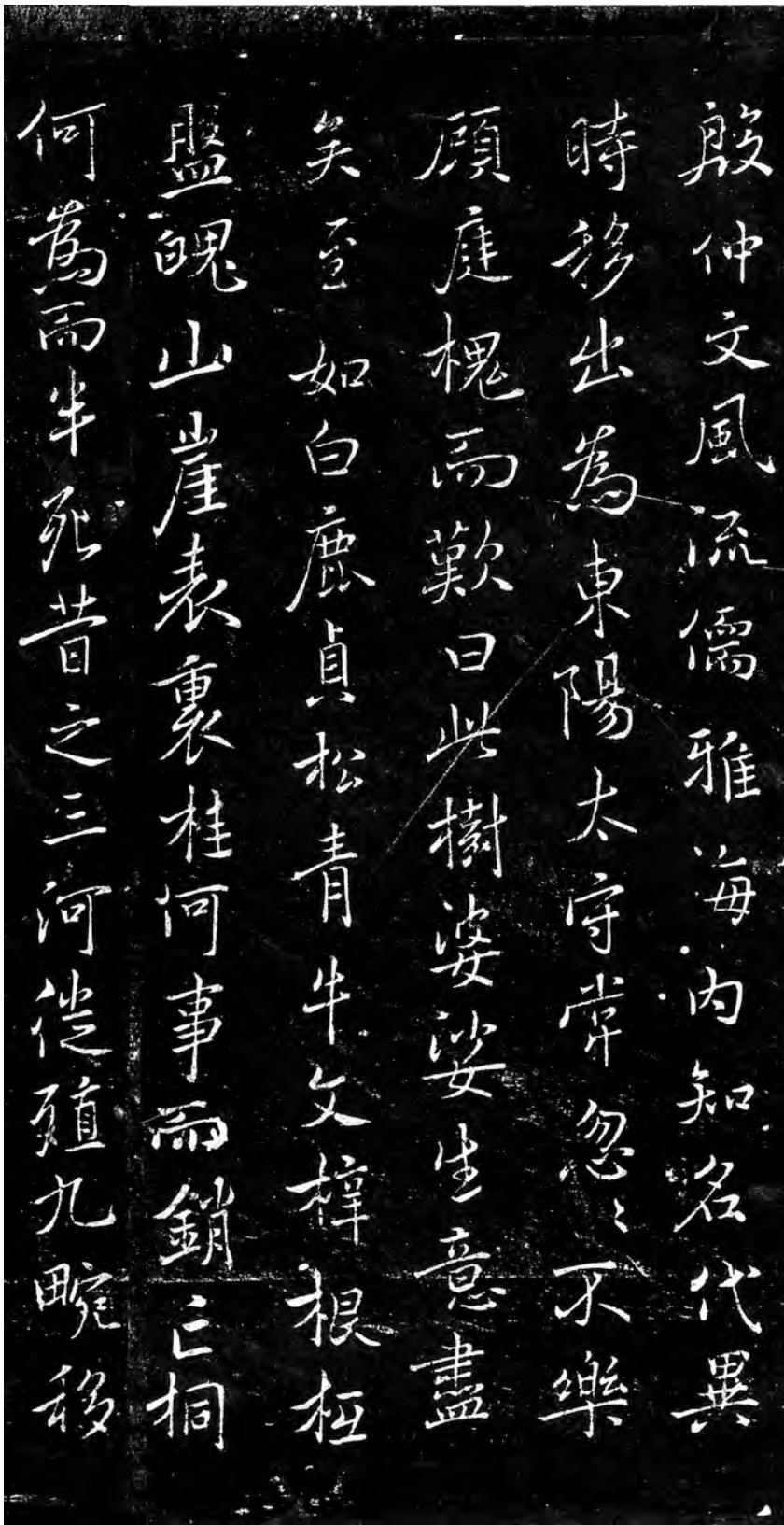
422

枯樹賦 (唐 630年) ①

褚遂良

〔解説〕「枯樹賦」は北周の有名な詩人庾信(513~581)が作った漢詩の賦(漢詩の一体、漢以後さかんになった)である。内容は東晋の殷仲文が庭の樹木の衰枯をみて人生の無情を嘆く様子を表現し、庾信みずから異郷の地にある悲哀を盛り込んでいる。この枯樹賦の末尾には「貞観四年(630)十月八日。燕国公の為に書す」とあるのみで褚遂良の署名はない。しかし、唐

代の徐浩の「古述記」に「遂良の枯樹賦」との記述や北宋の蘇頌「魏公題跋」により、古来、褚遂良(596~658)の書とされている。褚遂良35歳のときの書で、現存する褚書中、書写年代のもっとも早い優れた行書である。線に粘りがあり、抑揚緩急をつけた運筆の妙がみごとに表現されている。本文全37行、行12~14字(大きさ約2cm)、全47字からなる。(編集部)



(掲載図版75%に縮小)

殷仲文。風流儒雅。瀕内知名。代異時移。出爲東陽太守。常忽々不樂。顧庭槐而歎曰。此樹婆娑。生意盡矣。至如白鹿貞松。青牛文梓。根柢盤魄。山崖表裏。桂何事而銷亡。桐何爲而半死。昔之三河徙殖。九畹移

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) 当該古典の上記掲載部分以外も可。
(B. 小品の部—半切7/8以上半切以内 (A・B縦横自由))

古筆鑑賞

196

石山切伊勢集
(伝藤原公任)

①

特別研究部臨書課題

かな研究部臨書課題

△半紙普通判(料紙可)・縦長に使用
別紙を裁断して貼付も可。半横紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
B. A. 大作の部 毎日展覧審査員・会員サイズ以内、2×6尺 全紙も可
△いづれも左記の掲載以外も可。V

△よみく

ふかき人ぞゝあていひける、ふみおこ
すれどかへりごとせねば

山がつはいへどもかるもなかりけりこひこそ
そらに我こたへせよ

猶かへりごとせざりければ、いなともい
にともわが君くとせむれば

いかにせんいひはなたれずうきものは
みをこころとせぬよなりけり



※掲載図版は80%縮小。

(山種美術館蔵)

〔解説〕「石山切」は、「西本願寺本三十三人歌集」のうちの「貫之集下」および「伊勢集」の二帖の切(断簡)をいう。もとは枯葉装の冊子本である。昭和4年(1929)に、両帖が分割されたとき、かつて本願寺が大阪石山(現在の大阪城付近)にあったことから、その分割に関わった実業家・益田鈍翁(1848~1938)によって「石山切」と命名された。「伊勢集」の筆者を藤原公任と伝えるが確証はなく、現段階では未詳。天永3年(1112)頃の書写と推定されている。「石山切伊勢集」は料紙と優美なかなとが相まって、王朝貴族の典雅な美意識を窺わせて、平安後期を代表する古筆切の名品である。現在は茶席の床を飾る掛け軸などに仕立てられて、国内外の美術館や収集家に分蔵されている。(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書し
まじょう。

※落款を必ず入れる。署名、もし
くは○○臨(押印のみも可)

漢字規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

半田藤扇選書



軽如蝉翼

よみ (軽きことと蝉の翼の如し)

書体 自由

習い方解説 四

半田藤扇

軽如蝉翼 (採過庭「書譜」)

(軽きことと蝉の翼の如し)

蝉のはねのように軽妙である (王羲之の筆跡の妙を形容した語)

この度の語句の意味とは真逆な
雰囲気作風に挑戦してみました。
上記の作は、木簡隷書の創作です。
迫力と重厚な線を表現し自由奔放
な書きぶりで潤渇にも心を止めて
みましょう。羊毛筆を使用。

※左記△参考作品▽は、上記の木
簡のイメージを草書に変化させ
迫力ある表現をとらえてみまし
た。4文字、各々の造形に注意
して書作してください。羊毛筆
を使用。



漢字規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

太平邑峰選書

心

邑峰書

放

心安間放

よみ (心安間放)

書体 楷書

習い方解説 四

太平邑峰

心安間放
(心安間放)

前月参考にした北魏の方筆系の書に対して、同じ時代の書でありながらやや趣の異なる円筆系の鄭道昭に代表される「磨崖の書」を参考にしてみました。20代前半の若い時、中国・山東省の雲峰山、天柱山、太基山を巡り、「えっ、こんなところに」と思われる場所に刻された書に触れることができたのは忘れられない思い出です。円筆による素朴で大らかな書き方は、物事のスピード化に慣れてしまった私たち現代人に古代のゆったりとした時間の流れの中に誘ってくれるかのようです。

やや濃いめの墨で羊毛筆を用いて書いてみました。筆も長短色々使ってみるのも楽しいものです。字形はやや扁平にして素朴な風情をねらっています。

習い方解説 (一)

石井明子

おしなべてものを思はぬ人にさへ
心をつくる秋のはつかせ

(西行「新古今和歌集」)

総じて、物に心を動かさぬ人に
さえも、あはれを思わせる秋の初
風であるよ、との意。

- 手本を離れて創作するために
- ① 歌意を理解し、時間をかけて完
成形をイメージする。
 - ② そのイメージに操られ、雛形を
作り、実物大に拡大する。
 - ③ イメージと実物の布置との矛盾
を埋める修正をくり返す。
 - ④ 誤字、脱字を恐れ、原典に戻り、
知ってる字も字典で調べる。

右の作業後、仕上がり奇を衒
うものでないことを確かめます。
そのためには自分の書いたものと
苦痛を伴うほど向き合うことにな
ります。自己嫌悪と妥協の間を行
きつ戻りつ。少し楽しくなってい
るではありませんか。

よみ方 おしな(奈)べ(辺)て(天)も(毛)の(農)を思(於毛)は(者)ぬ人に(尔)さへ(弊)

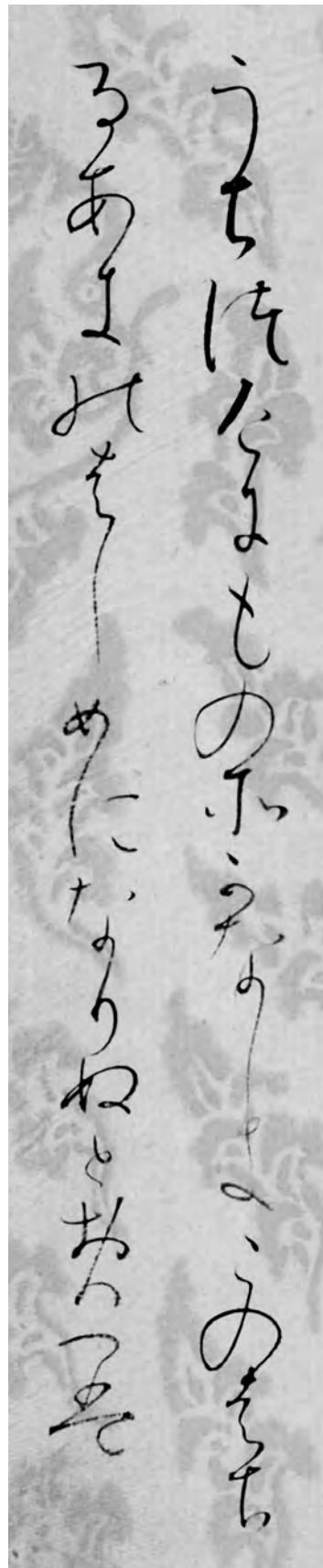
心(こころ)を(越)つく(久)る秋のは(八)つ(徒)か(可)せ(せ)

創作

かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分 (2字以上の連続または単体を含む) を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 うちつ(徒)け(介)に(尔)ものぞ(所)か(可)なしき(支)このは(者)ちる

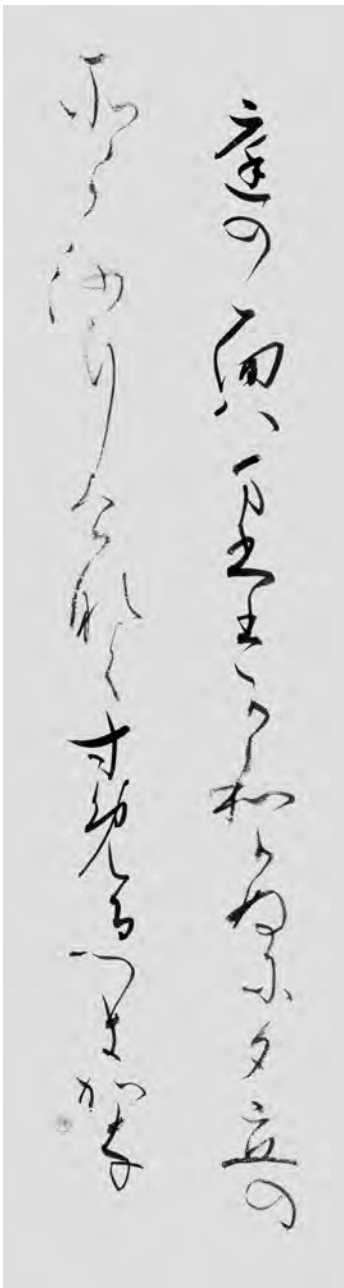
あき(支)の(能)は(者)じめになりぬとおも(无)へば(盤)

習い方解説 (一)

小島 孝予

かな条幅規定 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

小島 孝予 選書



よみ方

庭にわの面おもては(ハ)ま(万)だ(堂)か(可)わ(和)か(可)ぬに(亦)夕立ゆふだちの
空そら(所良)さ(沙)りげ(介)な(那)く(久)澄(寸)め(免)る月つき(川支)か(加)な(奈)

創作

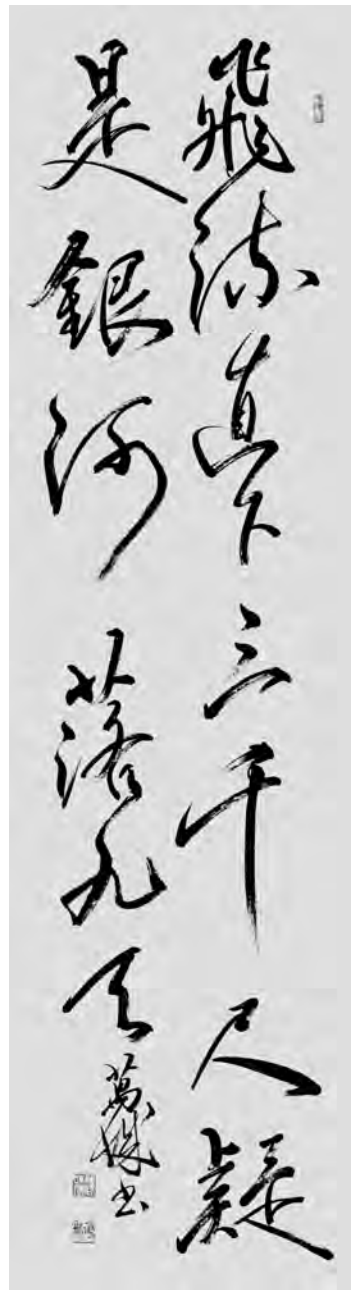
庭にわの面おもてはまだかわかぬに夕立ゆふだちの
空そらさりげなく澄すめる月つきかな
(源頼政「新古今和歌集」)

和歌の二行書です。かなの流麗さを表現するために連続は大切な要素です。その上で変体がなをどのように取り入れるかによって、流動的にもなれば不自然な流れにもなってしまいます。常に隣り合う行の響き合いを十分に考慮し、作品全体の構成を検討することによって、リズム、呼吸、流麗さが生まれてくるのです。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書



飛流直下三千尺 疑是銀河落九天 (李白「望廬山瀑布」)
(飛流直下三千尺、疑うらくは是れ銀河の九天より落つるか。)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書



仰觀山俯聽泉 (白楽天)
(仰いで山を觀俯して泉を聴く。)

書体||自由

習い方解説 四

種谷萬城

李白が、廬山の瀑布を遠望し、恰も銀河が虚空から落下するが如きと詠んだ。その壮大なスケールの景観と水飛沫を想像し、連綿を交えた行草で書いた。明末清初の、王鐸、傅山は連綿行草書で魅力的な名品を多く残した。それらは、条幅作品創作の良き参考になる。近年製の邵芝巖做古筆で長鋒羊毫『王鐸草書筆』を用いた。

※タテ形式に限る

習い方解説 四

小竹石雲

創作はイメージを描くことが大事。参考にするのは古典。そこで鄭道昭の雄大さと滋味さをねらってみました。そのためには、藏鋒と落筆とで間合いをはかりながら、一呼吸遅らせて筆を出す気持ちで大らかに運筆してみました。筆(羊毛の長鋒)と濃墨とに助けられた部分もあります。何よりも筆と気持ちとの一体感が重要。

ペン字規定 【八月十五日締めきり】

広瀬舟雲選書

人類が新型コロナウイルス
感染症に打ち勝った証し
として東京大会を完全な形
で開催するため緊密に連携
していくことを確認。舟雲かく

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体Ⅱ自由

習い方解説 四

広瀬舟雲

7月はオリンピック、8月はパラリンピックの開会式が、国立競技場で開催される予定であった。課題文は東京大会延期を発表した日の、バツハIIOC会長との確認事項を述べた首相談話の要約である。すべてのアスリートが最高の力を発揮できる大会の実現を目指すためのやむなき措置。東京臨海副都心有明ありあけにも五輪施設がいくつも完成。本学もその一翼を担い、私も各国の人々や選手たちを待ちわびていた。延期であり中止ではないことが救い。弾力のあるフェルトペンを使用。

人類が新型コロナウイルス感染症に打ち勝った証しとして東京大会を完全な形で開催するため緊密に連携していくことを確認。

冠省 早々 向暑 夏の日差しに
 冠省 早々 向暑 夏の日差しに
 梅雨もようやく上がり夏の日差しに
 梅雨もようやく上がり夏の日差しに

太平邑峯

(楷書) 冠省 早々 向暑 夏の日差しに
 (楷書) 梅雨もようやく上がり夏の日差しに

(行書) 冠省 早々 向暑 夏の日差しに
 (行書) 梅雨もようやく上がり夏の日差しに

基本用語

「冠省」「前略」と同じく前文省略の場合に、結びは「早々」などを用いる。

(掲載手本90%に縮小)

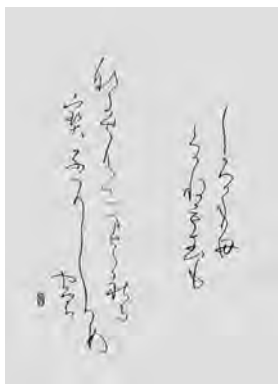
- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

ホープ作品
各部総評

NO. 709

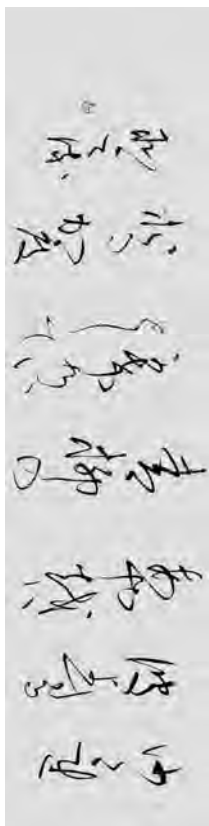
かな部 師範 野村 幸城

洞察力の深さは手本の学習を全てプラスに変え、独自のものとして展開。更に墨継ぎ研究を望む。
◎かな部総評 変体がな札の誤字多く残念。概ね完成度高い仕上がりにあったが、独自性を求めた創作の試み少なく疑問です。(明子評)



かな条幅部 準師 岡田 麻美

文字の大小・潤濁・余白等、丁寧に観察して筆を執っています。筆力の緩急が巧みで爽やかな趣も好感。◎かな条幅部総評 変体がな所(そ)の2画目は間違いやすいのでよく確認してほしい。筆は上下動をしないとベタベタで不可。(洋子評)



現代詩文書部 特選 本田 美書

構成、潤濁、流れ、余白のバランスなどパーフェクトに近い作品で素晴らしい句に負けていない。
◎現代詩文書部総評 多字数作品に漢字、かなで鍛えられた線質が見られないのが残念。(梓江評)



漢字条幅部 師範 神保 清風

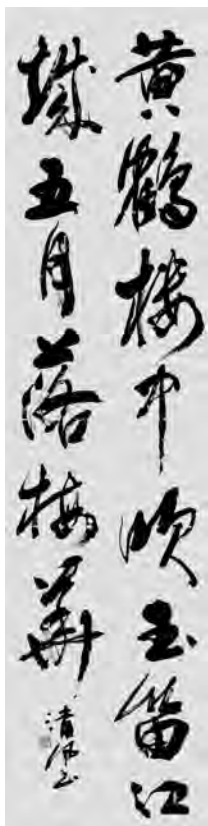
心に秘めた想いを紙面に表現する。観る側に心地よさが伝わる作風。日頃の努力の賜物でしょう。

前衛書部 特選 相内 沙莉

線と造形にドラマがある。視線の置き方で変貌する作。感性と表現力の豊かさに今後期待している。
◎前衛書部総評 独自性を追い技巧的になりすぎている。心に響く意欲作に期待したい。(蓮紅評)



◎漢字条幅部総評 上級作品に、誤字が目につく。玉・五が似ているからか?。行・草書きに挑戦し手腕が窺える作多し。(藤扇評)



漢字条幅部 師範 神保 清風

漢字部 師範 細野 翠

のびやかで広がりある行草表現。柔らかな筆致は運筆の大きさを感ぜさせ、温かみを醸し出す。
◎漢字部総評 上級書体自由表現は、多彩な作が多く楽しめる。草書表現字形に注意を。色々工夫したい。(大雲評)



ペン字部 師範 三浦 小樹

一点一画、文字配列に至るまで一貫した作品。確かな文字表現で力強さの中に清涼感も加味。
◎ペン字部総評 行の上部に漢字が多く、字数も少ない為行間余白が不均衡な作が目立ちました。紙面の中のバランス必須。(雪枝評)

東京2020エンブレム
《組市松紋》は、江戸の
伝統模様をモチーフと
して大会の意義と粋な
日本を描く。
小樹書

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

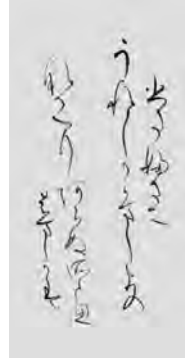
選評 下谷洋子 種谷萬城 白石和楓 倉林紅瑤

小品の部

かな

(卯月)

木村関泉
「ひたぶるに」



68.5×35cm

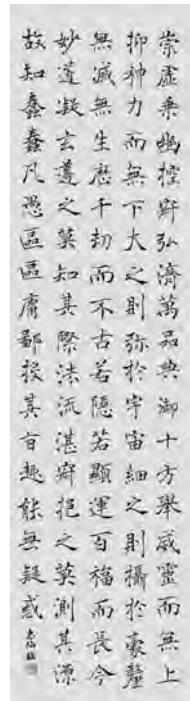
◆オーソドックスな構成だが、無理のない連続で流れを美しく導く。大小、疎密も理に適い清爽な趣。

(洋子評)

臨書

(澄春会)

土屋恵仙「雁塔聖教序」



136×35cm

◆多様な筆法を用いて、変化多様な線質を見事に表現し、原本の魅力を着実に捉えた臨書。余白も良い。

(萬城評)

土屋恵仙臨

前衛書

(玉州) 角張芳蘭「陽」



136×35cm

◆半切の縦長形式に上部から下部へ運筆のリズムがよく展開している。中央部の飛沫も効果的。墨色一考要す。

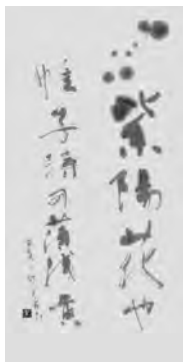
(紅瑤評)

角張芳蘭書

現代詩文書

(花香)

藤井花香
「芭蕉の句」



68.5×35cm

◆墨色に透明感があり、美しい滲みと渴筆の2行が見事にマッチしている。温和で落ち着いた魅力作。

(和楓評)

藤井花香書

創作の部(33点)

漢字 10点

かな 5点

現代 21点

前衛 7点

臨書の部(36点)

漢字 29点

かな 7点

総出品点数
69点

〈特選候補者〉

(創作の部)

潮音 齋藤 杏邑

「かな」

「現代詩」

白珠 西山 葵龍

大雲 柿沼 彩香

もく 森田 藤谷

大雲 阿部 恵泉

千葉 松村 秀扇

寿福 大作 優子

「前衛」

宮古 長澤 紅苑

(臨書の部)

「漢字」

千葉 松田 藍華

紅瑤 原島 春汀

千葉 安藤 叙孝

さつ 明石 麗子

白扇 神田 典子

八街 大日向 幽香

天満 田畑 明琴

千葉 石川 晴洞

たか 浜野 永重

宗苑 白井 真理

「かな」

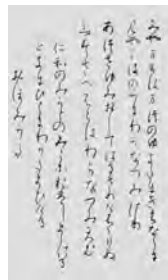
高崎 飯島 律子

英峰 吉瀬 彩雨

臨書 (千葉) 猪又理扇 「高野切第一種」

大作の部

部分拡大



猪又理扇臨

138×70cm

◆原帖をよく観て臨書している。余裕を保ちつつ、一貫している。下段後半が特に美しい。学書に敬服。
(和楓評)

かな (水壺)

伊澤香雨 「百人一首」



伊澤香雨書

138×70cm

◆先ず、独特のリズム感に惹かれた。荒削りな部分もあるが、この大胆さ気宇の豊かさが大字には必須。
(洋子評)

臨書 (千葉)

竹浪叙舟 「雁塔聖教序」



竹浪叙舟臨

138×70cm

◆繊細で変化に富む線の表情を、細やかな感性で捉えた上質の臨書。配字のバランスと余白も美しい。
(萬城評)

前衛書

(趙雲社)

吉田恵弦 「惑星」



吉田恵弦書

176×85cm

◆藍紺紙に白の筆線が鮮やか。気迫あふれる筆致、紙面に豪快さが漲っている。余白が冴え存在感のある快作。
(紅瑤評)

創作の部(34点)	漢字	3点
かな	1点	4点
現代	0点	10点
篆刻	0点	0点
前衛	16点	16点
臨書の部(19点)	漢字	18点
かな	1点	1点
総出品点数		53点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

秀恵 阿部 雅悠

「かな」

松延 藤原三枝子

〔現代詩〕

うる 橘 由華

光風 千葉 光泉

大雲 神谷 雲卿

〔前衛〕

容洲 阿部 邑里

紅瑤 栗原りか

紅瑤 佐藤 成美

松風 西條 松雲

篤信 三浦 朱風

〔臨書の部〕

〔漢字〕

春城 東原 春城

大雲 江本 興舟

英峰 佐藤 桂香

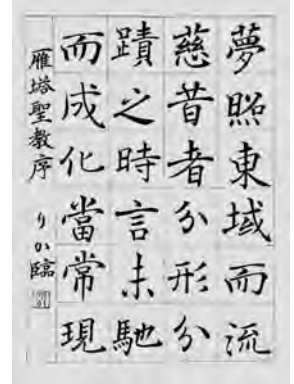
大雲 鷺山 美梢

澄春 新行内 芳蘭

漢字研究部
(雁塔聖教序)

選評 川島舟錦

今月のホープ作品



栗原りか

漢字研究部 特選 栗原りか

法帖を実によく見て素直に表現。真摯に臨書し、よく書き込んで24文字をまとめ上げました。法帖名、氏名まで伸びやか、上手い。細字の実用書にすぐにもつながりそうです。今後の成長や可能性を感じさせる作品です。

◎漢字研究部総評

個性は、鍛錬を経てにじみ出てくるもの。せっかくの機会です。雁塔聖教序を全臨し、

「全体を把握して部分練習をする」「何度も練習する」「できるだけたくさん書く」ことが、大切であると思います。

字形や用筆法など基本を理解しながら筆脈や気脈を意識し、しっかり書き込むことで、作品のリズムや緩急が生まれます。その後に人柄や個性が加味されるものだと思います。

現常世

騰漢庭而皎夢 照東域而流慈 昔者分形分蹟 之時言未馳而

流域而

慈而

東域

化當

現常世

照東域 而流慈

當常現

照東域 而流慈

流域而

照東域 而流慈

流域而

流慈

照東域 而流慈

東域

流域而

流慈而

而流慈

昔者

成化

現常世

流域而

流慈

而流慈

照東域

流域而

流慈

純智 紅櫻 紅雨 甘雨 谷秀

翠泉 照子 天鈴 祥風

良彩 雪子 裕子 春莉 沙莉

雅悠 楊風 杏邑 雅風 華洋

かな研究部 (高野切第一種)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



後 藤 良 泉

墨継ぎの美しさを感じて、一種の線の流れを明確に表現できました。筆先に力がかもり、品格のある作品です。平安期のかな書のあるべき姿です。
 ◎かな研究部総評
 臨書に向き合う時に原本をしつかりと理解して欲しいです。線質・字形・連綿等。特に潤渇の場所の把握は美しい表現の基本です。墨量に気配りをして下さい。

佑翠泰 白祥信 愛白香 明和芝
 子陽峰 昇風子 石珠舟 明日夏子雲

かな研究部成績表

八坂	水橋	京橋	やま	書泉	清和	書月	玉遊	玉松	たか	澄雲	京云	千丸	東美	土氣	石智	紅瑤	正華	八街	楓	後藤	上野	井上	芝良	泉雲
八坂	水橋	京橋	やま	書泉	清和	書月	玉遊	玉松	たか	澄雲	京云	千丸	東美	土氣	石智	紅瑤	正華	八街	楓	後藤	上野	井上	芝良	泉雲
八坂	水橋	京橋	やま	書泉	清和	書月	玉遊	玉松	たか	澄雲	京云	千丸	東美	土氣	石智	紅瑤	正華	八街	楓	後藤	上野	井上	芝良	泉雲
八坂	水橋	京橋	やま	書泉	清和	書月	玉遊	玉松	たか	澄雲	京云	千丸	東美	土氣	石智	紅瑤	正華	八街	楓	後藤	上野	井上	芝良	泉雲

かな研究部 特選 後藤良泉

[特別昇段級試験臨書課題]

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。

高 貞 碑 (楷書)

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から5文字を臨書



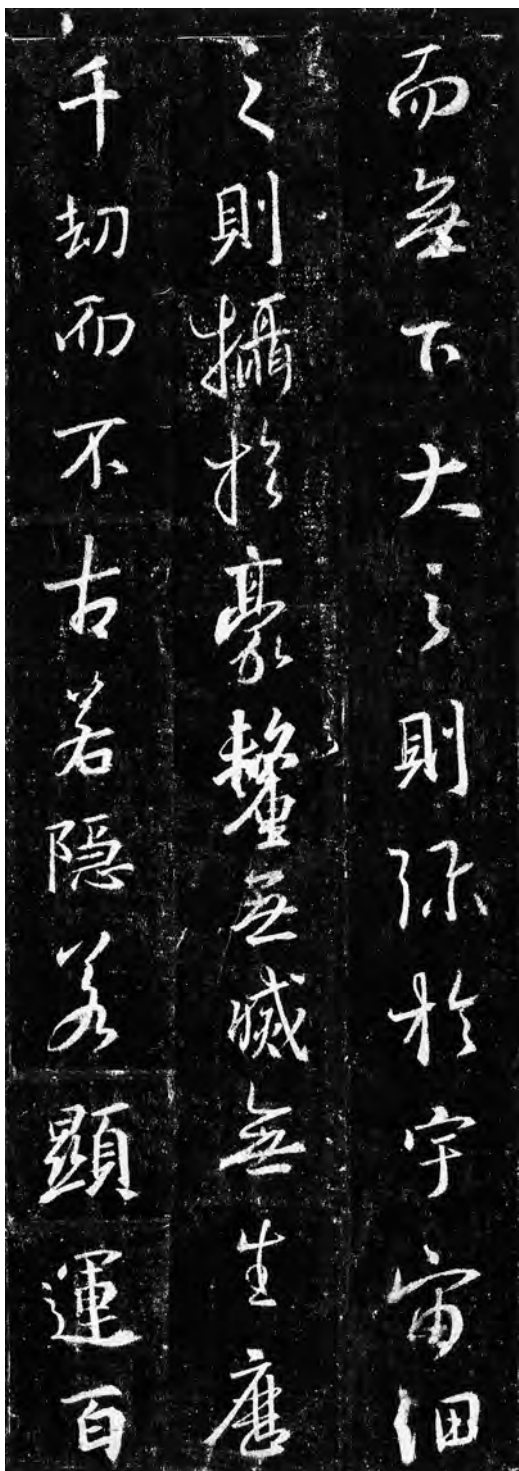
英華於王許。龍馬／流車。陸離於陰鄧。

集字聖教序 (行書)

漢字部

第二種

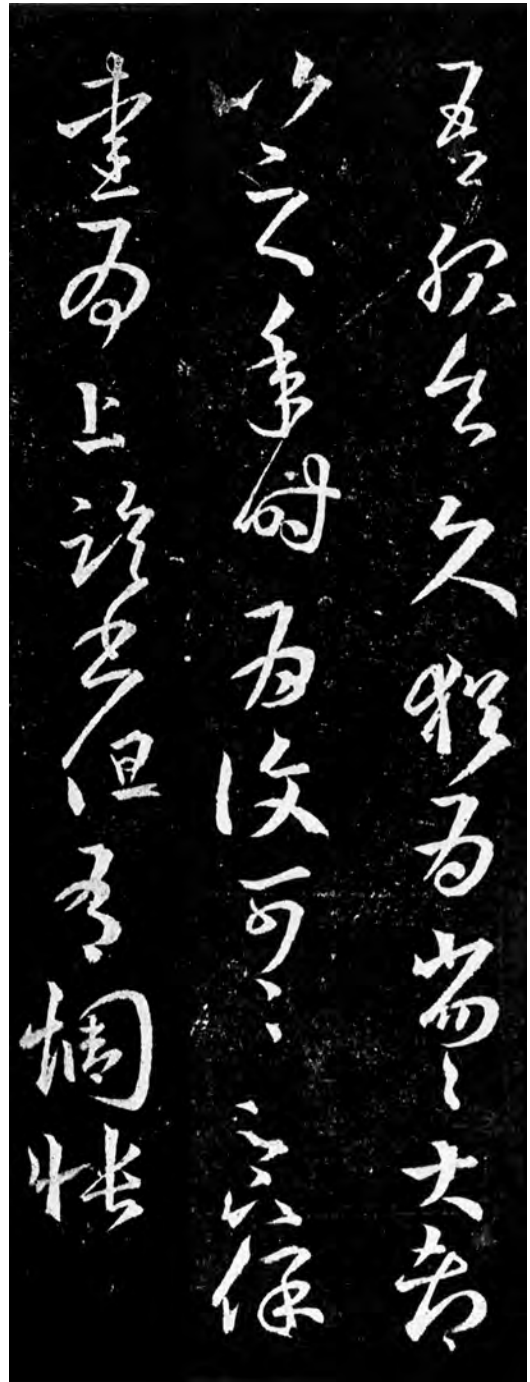
半紙に写真掲載の中から12文字を臨書



而無下。大之則彌(弥)於宇宙。細之則攝於豪釐。無滅無生。歷千劫而不古。若隱若顯。運百



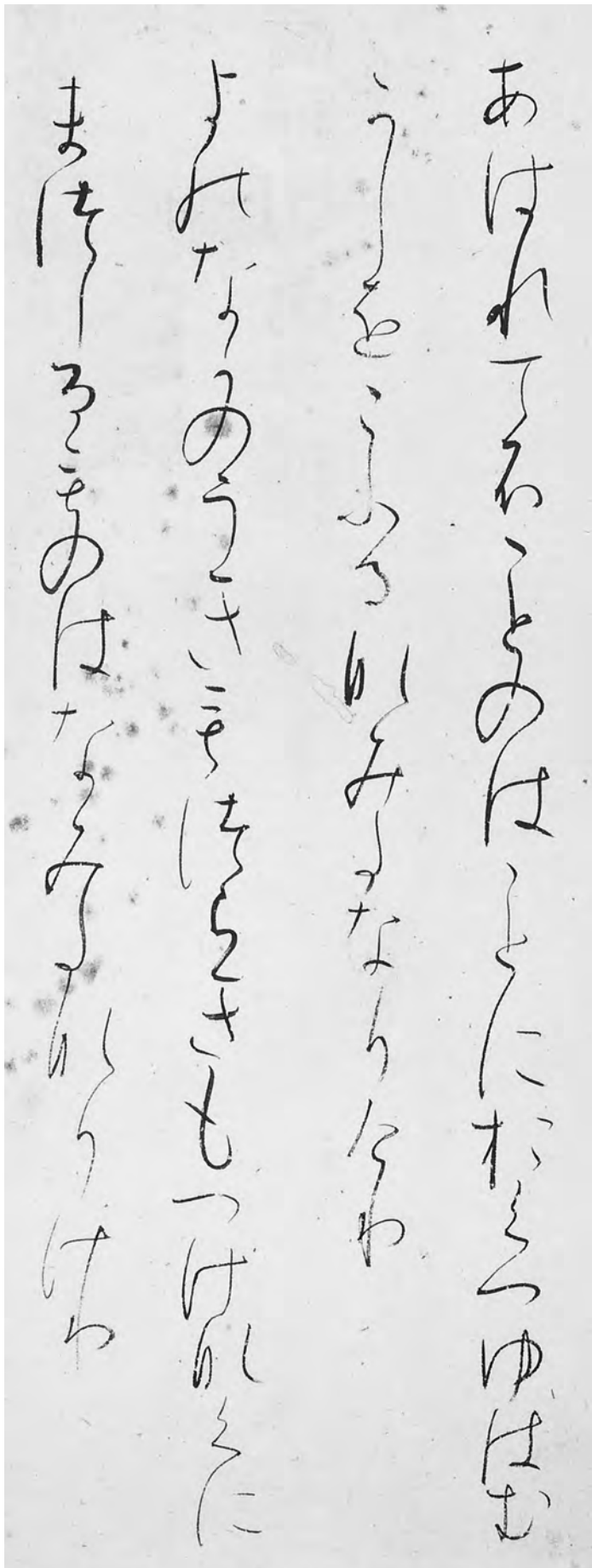
先苞四忍之行。松風／水月。未足比其清華。／仙露明珠。詎能方其／朗潤。故以智通無累。



吾服食久。猶爲劣々。大都比之年時。爲復可々。足下保愛爲上。臨書但有惆悵。



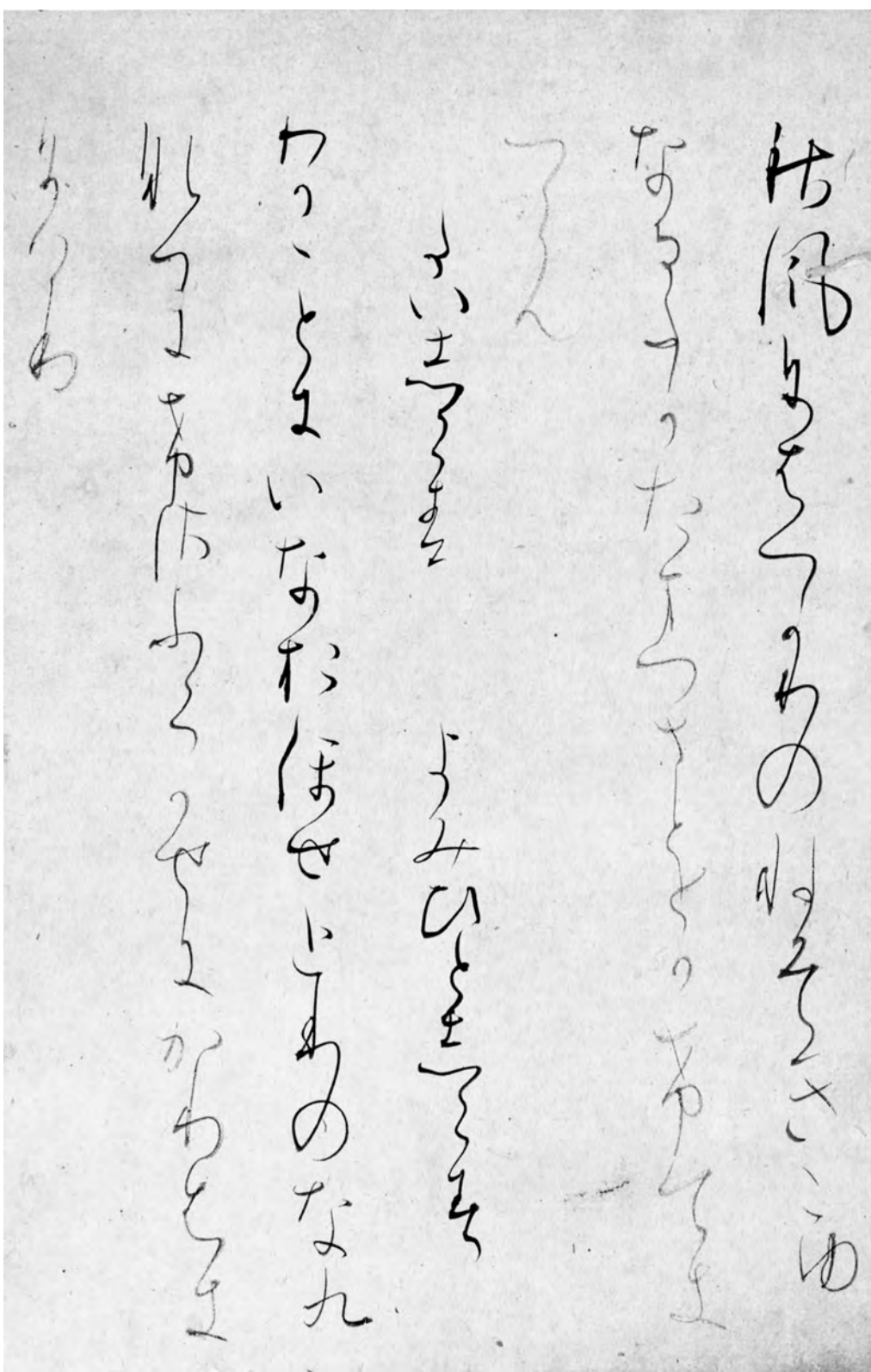
官。江陵少尹荆南行軍司馬。長卿晉卿邠卿充



あはれてふ^不ことのは^終ごとにおく^久つゆはむ^可／かしをこふる^那なみ^多なり^介けり^利
よ^能のな^可かの^毛う^徒き^毛も^多つ^多ら^多き^多も^多つ^多げ^多な^多く^多に^多／ま^多づ^多し^多る^多も^多の^多は^多な^多み^多だ^多なり^多けり^多

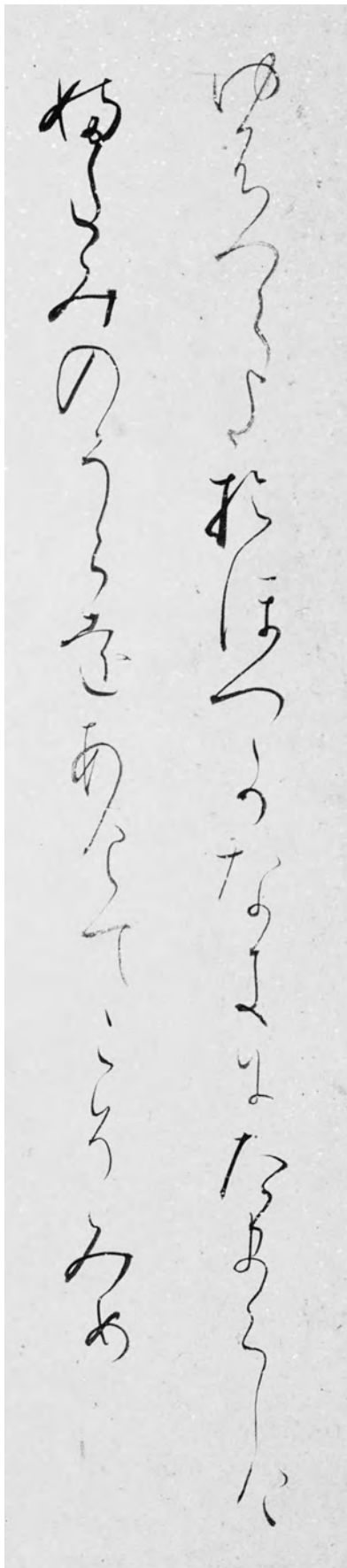
※図版は原寸

※ 詞書ことばがきと読人は書かなくとも可よみびと



秋風あきかぜにはつかりつかりのねぞきねぞきこゆこゆ／なるたがたまづたまづさをかけてかけてき／つらん
多だい志しらす春よみ志びと春しらす
わが可ど心にいな於おほせ利せどりのなく九／な那べ尔にけ希さ佐ふく久かせ可にかり利は支き支／に尔け介り

※図版は原寸



ゆ^不ぶ^久づくよ^於おぼつ^可かな^支きに^尔たま^久くし^介げ／ふ^婦た^多みの^速うら^介をあ^曾けてこそ^曾みめ

※図版は原寸

ご注意!!

名前のかき方

- ◎どの部も落款を入れる。
- ・創作は○○書(かな部・かな条幅部は印のみも可)と書く。
- ・臨書は○○臨と書く。

●篆刻

【八月十五日締めきり】

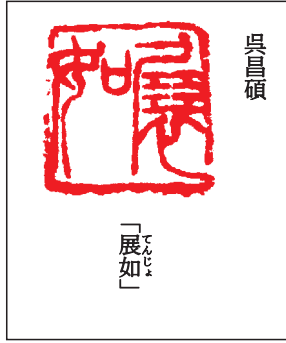
〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

- ① 摹刻 (ア) 課題による語句 (イ) 原印自由 (出品の際、原印のコピー添付)
- ② 創作 語句自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
○印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
○創作、摹刻とも応募は一人一点。

7月号 篆刻課題

〈原印コピー〉



◎出品方法

用紙の右側に押しし、左側に印影の釈文を明記 並びに落款(氏名)を入れる。

709号篆刻優秀作品

篆刻



「土方」

特選 久保村 南城
細部に巨りよく臨摹されている運刀の佳さは出書中、随一。

創作



「仁者寿」

特選 大沼 樺峰
構成の妙、疎密の度合等、佳く出来ている。更に精進下さい。

選評 後藤 大峰

◎篆刻部総評

応募作品の中には大分経歴の有る方、初心の方など混在して居りますが、全体に真摯な取り組みが各作品に見うけられました。(大峰評)

<p>(摹刻)</p> <p>特選 研水 久保村 南城</p> <p>秀作(60書題) 高真 鶴淵 亜希 墨宣 西川 翠嵐</p>		<p>佳作(60書題) 唯一 逢沢 唯一 洞書 安藤 楊風 大雲 小沢 華仙 北日 柿沼 彩香 成田 能喜</p> <p>入選(60書題) 大綱 片岡 豪峰 大雲 高武 弘文 書游 庄司 咏舛 遊雲 中川 天峰 やま 橋本 清麗 (選外2名氏名略)</p>	
<p>(創作)</p> <p>特選 仙台 大沼 樺峰</p> <p>秀作(60書題) 眩耀 佐々木 青腰 芳蘭 新行内 光裕</p>		<p>佳作(60書題) 秀惠 阿部 雅悠 石舟 阿部 祥越 弘藤 阿部 祥花 炎佳 伊藤 華炎 生大 中昌 義則</p> <p>入選(60書題) 紅苑 相川 治舟 遊雲 赤星 文庵 慈空 坂本 崑山 四枝 塚田 美翠 (選外なし)</p>	

〈特選〉

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田一―一六―一七
東神田プラザビル三階

公益財団法人 書道芸術院

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間に
お願いします。(土・日・祝日は休み)

送料

一か月の購読部数が
1部～9部までの一回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

令和二年六月二十五日印刷
令和二年七月一日発行

定価 一部 七五〇円

編集兼 発行人 辻元 洋一 (大雲)
発行人 アーチ処理 株式会社 リンクス
印刷 小沢写真印刷株式会社
発行所 公益財団法人 書道芸術院
〒101-0031 東京都千代田区東神田一―一六―一七
電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957
振替 〇〇一五〇四―一三三〇五八
ホームページ http://www.hins.co.jp/shogai/